

里山周年放牧繁殖牛の除角がその後の Body Condition Score および繁殖成績に及ぼす影響

中 島 良 文

(第41回西日本畜産学会講演要旨) 1990. 11. 6. 佐賀市はがくれ荘

目 的：除角によって牛の個体間競合を緩和することで肉用牛を群管理へ移行させ、特に低生産性下にある肉用牛繁殖経営を改善することが推奨されている。里山放牧での繁殖牛の生産では放牧だけで飼料が足るケースは少なく、なんらかの形で飼料を補給する必要があり、飼料補給時の競合緩和対策は重要である。本調査は里山での周年放牧条件下で、特に、冬季に飼料を補給しながら管理している牛群に対する除角の効果を Body Condition Score の推移と繁殖成績で検討した。

方 法：薩摩郡甕島の里村にある岸牧場では15ヘクタールの急傾斜地の里山を利用し、周年放牧で26頭の繁殖牛を飼養している。しかし、秋季から早春にかけて草量が低下するため、この時期にはいね藁、焼酎カスおよび濃厚飼料等を補給していたが、競合のため栄養状態のバラツキが大きく、繁殖成績も低下していた。このため平成元年12月20日に最高齢で劣位の1頭を除いて全牛を除角し、栄養状態および繁殖成績の改善を計ろうとした。Body Condition Score の評定は除角直後の12月29日から平成2年7月30日の間に、6月を除いて、月1回個体ごとに2名で評定した。更に、除角前後の繁殖成績を比較した。

結 果：除角直後の Body Condition Score は2⁻から4⁺の間に分散していたが、40日後には3を中心に2から4⁺の間に分散した。その後2月から5月にかけてすべての牛の Score が2⁺以上になり、7月には3⁻から4の間に分散した。除角直後の Score が2程度であった牛は3ヵ月後には3程度に改善された。また、1から2産の若い牛は除角直後の Score は2⁻であったが、次第に改善されて7月には3となった。しかしながら、受胎に要する日数は除角前が116.6±64.3日、除角後が133.6±69.5日で、有意な差は認められず、むしろ低下する傾向にあった。

以上のことから、里山放牧での繁殖牛管理でも、除角は牛の栄養管理上有効であることが判ったが、除角そのものが直接的に繁殖成績を向上させる要因とはなりえないため、繁殖成績向上のためには独自の改善策が必要であると考えられた。